

在米日系人リーダーとの懇談会

民間レベルの日米の「架け橋」を目指して

桜井代表幹事、小島専務理事、米州および総合外交戦略両委員会のメンバーは、外務省の招聘プログラムで訪日した
在米日系人リーダーとの懇談会を、3月5日に実施した。IBM
やゲイツ財団の幹部や政府・大学関係者など、官民間わず
米国社会で活躍するリーダー13名と、両国の民間レベルで
の交流を深めるべく、活発な意見交換を行った。



懇談会の概要

桜井代表幹事は歓迎挨拶で、「在米日系人の皆様との絆を再発見する契機になる」と、協力関係の強化に向けた期待を述べた。これに対し、在米日系人リーダーからは、「今回訪日したメンバーは、ビジネス、政府部門など経歴は多様だが、全員が日本人の心を持ったアメリカ人であり、日米間の良好な関係を育んでいきたい」と今後の交流の深化を望む発言があった。

【経済同友会の出席者】

(敬称略)

- 桜井 正光 代表幹事(リコー 取締役会長)
- 小島 邦夫 専務理事
- 遠藤 隆雄(日本オラクル 取締役代表執行役社長 最高経営責任者)
- 鈴木 幸一(インターネットイニシアティブ 取締役社長)
- 富樫 直記(フューチャーフィナンシャル ストラテジー 取締役社長)
- 福川 伸次(機械産業記念事業財団 会長)
- 星野 朝子(日産自動車 執行役員)
- 程 近智(アクセセンチュア 取締役社長)
- 松居 克彦(サン・ライフ 相談役)
- 山脇 康(日本郵船 取締役副会長)

【在米日系人リーダー】

官・民の各分野で活躍するリーダー13名

日系人リーダー (以下:日系リ) :
日本には、議論を必ずしも好まない文化があると聞いたが、その傾向は変わりつつあるのか。

経済同友会 (以下:同友会) : 国際的な議論の場で、日本人が消極的であるとすれば、語学力の要素が大きいのではないか。日本企業の多くは、引き続き厳しい国際競争を勝ち抜いていく必要があり、消極的になっている余地はない。

日系リ: 米国では起業を支援するプライベート・エクイティ・ファンドや、ベンチャー・キャピタルが存在するが、日本ではそういった仕組みが弱いようだ。

同友会: 資金調達もさることながら、リスクを負って起業をして、自分たちの手で世界を変えてみせよう、という野心を持った人材が少ないことが問題だろう。今の米国の若い世代は、現下の経済環境で何を求め、目指しているのだろうか。

日系リ: 今、米国の若い世代は、新たな生活スタイルを築き上げようとしている。具体的には、過度な消費生活を改め、エネルギーや資源の節約に努めるというものだ。この流れには、将来への希望を感じる。モノにこだわらず、社会との関係の中に価値を見出すという、私が日本人の祖父から受け継いだ価値観と似ており、もしかすると、日本の伝統的な文化の中に

こそ、解があるのかもしれない。



日系リ: 日本の高齢化を懸念する声が多くあるが、何か対策はあるのか。

同友会: 高齢化を社会の負荷としてとらえるかどうかだ。高齢化ビジネスを展開できる可能性もあるし、成熟した社会ゆえの豊かさを実現することもできるのではないか。一方、少子化はより困難な課題だ。人口増は簡単に実現できるわけではないので、より高度の効率化が求められる。また少子・高齢化社会においては、社会保障面で若年世代に負担がかかる。いかにして高齢層と若年層でコストを分かち合うかという視点に立って、システム構築を進めなくてはならない。

日系リ: 米国では移民政策を採用しているため、移民が経済活性化や人口増に寄与している側面がある。社会の効率化という点で、先進国の次代モデルを提示できるのは日本だけではないか。

